

---

# 変わらない天空の下で

彩月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

変わらない天空の下で

### 【Nコード】

N2329N

### 【作者名】

彩月

### 【あらすじ】

とある学園に1人の少女、ネプチューンが転校してきた。すぐに彼女は受け入れられそして質問責めにあう。いくつかの質問に答えたとき、彼女はあることに気づく。この人たちは自分の、過去や家族について聞いてこないことに。

## 終業式、ちよつと前（前書き）

太陽系・ギリシャ神話の擬人化です。  
と言つても厳密ではありませんが。

実在するいかなるものとも関係ありません。

また、作者が詳しく知らないことも、書いてあります。  
そういうものを不快と感じられる方は、観覧しない方がいいかも知れません。

ご注意ください。

## 終業式、ちよつと前

九月、その始業式が始まるちよつと前。

一人の少女が緊張した顔で職員室の前に立っていた。

少女がその扉を叩こうとしていると、いきなり扉が開かれた。

「わわっ」「あっ」

ビックリして後退りしてしまった少女に中から出てきた青年が声をかける。

「ごめんね、驚かせてしまったかな？」

大丈夫です、そう言つて少女は改めて青年と向き合う。

「そう、よかった。今日は君の初めての日だね」

こくり。それは弱々しい頷き。不安げな同意。

「安心して。僕の生徒は、ここの皆はとても優しいから」

「はい」

少女が頷いたのを見てから、その手を軽く握った。

「さあ、行こう。ネプチューンちゃん！」

この日から少女、ネプチューンの新たな日常が始まった。

「おい、ちよつと待て。ヴィーナス！」

「へん。悔しかったら捕まえてみなあ」

長い夏休みが終わつて、まあ最も寮に住んでいるため実感湧かないけどね、そんなことを考えながらウラヌスは自分の席に座る。

相変わらずヴィーナスとマルスは追いかけてっこをしている。

あちらは久しぶりの再会（実際そうなのかはわからないけれど）だというのに、全く始まる前から変わっていない。

そしてそんな二人にマーキュリーが痺れを切らすのもいつもどおり。

「貴方達！クラス内で走り回らないで下さい」

ギヤーギヤーやりあっている三人をクラス委員のジュピターが落ちて着かせている。（と言っても完全に彼も楽しんでいる様子だが）本当に何も変わっていない。これがこのクラスの日常。

ウラヌスは今教室に入って来た人物に気付き手を振った。

「おはよ。サーたん」

「おはよ、ウー」

ここであつやく皆もちちらに振り向いた。

「あつ、二人ともおはよ！！」

——私は、私たちは知っている。

こうやっていつもと同じ変わらない日常が送れることは、とても幸せなことだということを——

## 始まりのチャイムまで

「そっぴやさ」

賑やかだつたクラスはマルスの一言で急に変わった。

「今日から転入生が来るかもしれないぜ」

教室は静まりかえつた。だがそれは一瞬のことで、

「あだつ、何すんだよ」

「なんでそんな重要なことをすぐに言わないのよ!」

「てめーが俺が来てすぐちよつかいかけてきたからじゃねーか」

でも、ヴィーナスの返しがなから、多分彼女も早く知りたがつているのだらう。

「先生が女の子と話していた所を見たんだよ。オレたちと同じぐらいの」

「へえ。どんな子だつた」

「別にしつかり見たわけじゃないからなあ。それにその子が転入生、それもオレたちのクラスのつて訳じゃ決まつたわけでもないし……」

マルスは言い淀んでしまった。

普段五月蠅い二人が黙つてしまつたため、嫌な沈黙に包まれる。

でも長くは続かなかつた。何故なら

「あつ、もう皆知つていたんだ。早いね」

クラス委員のジュピターが入つてきたからだ。

「おはよ、ジュピター。転校生のこと?」

そばにいたウラヌスが声を掛けると彼は頷き、

「うん。さつき先生がね……」

クラス委員とは先生の仕事を補佐する係。だから事前に知らされていたのだらう。

「へえ、久しぶりに転入生か」

「私以来だよ、なんかどきどきするなあ」

「女子が増えるのか、まあ今は二人だしね」

「あの子いなくなっちゃったもんね」

「もう、調子よくなったかな？」

「また会いに行こうぜ、転入生も含めて」

話題はコロコロ変わる。

でも、たった一つの質問で無秩序な空間は一気に現実引き戻された。

「あのさジューピター、その子って…」

誰かが不意に放った言葉によって。

そんな必要なかったのに。

「おつ、そろそろだぜ。チャイム」

マルスの言葉通り豪快にその音は響いた。

でも今日は先生がすぐには入ってこない。

ただ、そんな事を気にする生徒はいなく、ただ一つだけを待っていた。

やがて扉が開き「起立、礼」というマーキュリーの号令が行き渡る。

「皆さんお早うございます」

ウラヌスは別に騒ぎたてなかったが、もう彼らは我慢できないという顔でうずうずしている。

私が来た時もこんな感じだったのだろうか。

ボーっと事務事項を聞いていたら、いよいよその時はきた。

「みんな、もう気付いているよね。今日このクラスに新しい子がやってきます」

瞬間、クラス全体が沸き立つ。人数自体は少ないものの、賑やかさはダントツだ。

「名前は、何ていうの!」

「早く早く!」

そんな野次（主にマルスとヴィーナス）を困り顔でスルーしながら、

「じゃあ、入ってきてもらうね」

サンはそう言って、教室を出て…

短くない時間の後、1人の少女と共に入ってきた。

「

」

今日から、新しい日常が始まる。

## 始まりのチャイムまで（後書き）

大変遅くなって、すみません。

でもこれからはもつとスローペースになってしまおうと思います。

表記にブレ等が沢山あると思いますので、おかしかったら知らせて下さると助かります。

とにかく、この「転校編」は完結させますので！  
頑張ります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2329n/>

---

変わらない天空の下で

2011年10月7日12時14分発行